

■阿見町第7次総合計画前期基本計画策定に伴う各種団体ヒアリング 意見一覧

テーマ	基本目標1 協働・人権	基本目標2 子育て・福祉・健康・医療	基本目標3 教育・文化・スポーツ	基本目標4 生活環境・環境保全・防災	基本目標6 産業(農・商・工・観光)
1)阿見町の良い点・問題点	<p>【良い点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 町民活動課の対応が親切で活動しやすい。 電話1本で会議場所の予約が取れる。 出前講座の依頼・参加が多く、地域とのつながりが持っている。 町民の外国人に対する理解がある。 <p>【問題点】</p> <p>▼活動の活性化等に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動場所を増やしたい。地域に根差すものにしたい。 男女共同に限らず「誰もが(平等)」という話を女性に向けてより伝えていきたい。 地域で役割を決める際に、女性に手を挙げてもらえるように、担当課からも区長に呼び掛けてもらいたい。 国際交流において、同国人同士の交流にとどまってしまう、日本人との交流ができていない。 	<p>【良い点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 住みよいまち。自然環境が良い。 活動上、様々な協力が得られている。 町の担当課(者)との連携がよくとれている。 色々な世代との交流がある。 <p>【問題点】</p> <p>▼活動の活性化等に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動の認知度が低い。 活動頻度や内容に地域で差がある。 シルバークラブのない地区がある。 ネットワーク拡大により情報共有を深め、活動をより活発化させたい。 <p>▼活動メンバーに関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動の中で主体に動く人が限られている。また若い会員・後継者が不足。 	<p>【良い点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 阿見町の周辺は仙台伊達藩の領地だったこともあり、美味しい食材(米、野菜)を作ったまち。遺跡がいっぱいある。 阿見町は人づくりの理念が良い。 他市町村には少ない出前講座がある。 <p>【問題点】</p> <p>▼活動の活性化等に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> 魅力ある資源(歴史)が知られていない、活用されていない。(豪農や伊達政宗が残した書類、線路・操車場跡地、地域の遺跡等) 町民運動会は選手集めに苦労していたが、スポーツフェスタは自由参加で良い。もっと身近に運動・健康について学ぶ場や機会がほしい。(地域の集会施設であれば高齢者でも行ける) 出前講座の講座という言葉は難しいイメージがあるのか、なかなか人が集まらない。来れば楽しいということを伝えられると良い。 学校施設の老朽化が深刻。1,000人規模が集まれる大きな施設が欲しい。 <p>▼教育現場の人材確保/負担軽減</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の協力者とのマッチング手段が無い。 学校の実情に応じた教育活動が必要。 コミュニティスクールは、良い取組だが、学校側の負担が増えないような取り組みが必要。 <p>▼伝統文化の継承</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の伝統行事などは伝承していかだなければ無くなってしまう。 	<p>【良い点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 警察署や防犯連絡協議会と連携し、活動の企画・実施を適切にいただいている。 防犯灯など全額補助していただいている。 <p>【問題点】</p> <p>▼活動の活性化等に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> 町内の防犯関連団体が各々で活動しており、どのような団体がどのような活動をしているか分からないため、連携が取れていない。 <p>▼不法投棄に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> 霞ヶ浦湖岸周辺、塙城跡などで、不法投棄が多い。 圏央道が出来てから、不法投棄が増えた感じがする。 <p>▼霞ヶ浦の活動に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> 霞ヶ浦の植生を生かした活動を行っていない。 <p>▼学生(大学)との交流</p> <ul style="list-style-type: none"> 町内に茨城大学があるものの、環境の分野では学生と町民の交流がうまくできていない。 	<p>【良い点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 土壌が良く、様々な農作物が作れる。 新規就農者の満足度が上がっている。農業法人が増えている。実店舗を持たない創業希望者が増えている。 城跡があり、施設や立地が良い。アウトレットもある。 <p>【問題点】</p> <p>▼商業に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> 商業施設が分散している。飲食店がどこにあるのか分からない。 創業する人の創業場所として、近隣市より選ばれにくい。 大型店の出店やSNSをうまく活用できないことで、特に小さい店舗が衰退している。 <p>▼農業に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> 畑が多く何でもできるため、かえって特産品ができてにくい。 スイカやグリーンメロンの生産者が高齢化で減っている。 <p>▼物流に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> 幹線道路が少ない。 <p>▼観光に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光客のお土産や食事に、どこに案内して良いか分からない。 観光の目玉が少ない。 町内で1日過ごせる場所がない <p>▼学生(大学)との交流</p> <ul style="list-style-type: none"> 町民と大学の接点がそれほどない。

テーマ	基本目標1 協働・人権	基本目標2 子育て・福祉・健康・医療	基本目標3 教育・文化・スポーツ	基本目標4 生活環境・環境保全・防災	基本目標6 産業(農・商・工・観光)
<p>2)基本目標を達成するために必要な施策</p>	<p>▼外国人がまちと関わる仕組みづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 外国人生活相談を開始し周知も行ったが利用が無かった。 在住外国人と一緒にまちづくりを進めるため、外国人の意見も聞くべき。 個人情報保護のため支援したい人がいても直接コンタクトがとれない。 <p>▼より良い地域となるための人づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の体育委員のように、防災委員が作られるとよい。(男女一人ずつ) 地域にある様々な会(育成会や老人会等)同士のつながりが無い。挨拶・自己紹介だけでも良いので顔を合わせる機会をもてるようになることよい。 旧住民と新住民、お年寄り若く若い人といった枠では考えずに、みんな同じ阿見町で住んでいるのだという考えに持っていきけるようにしている。 女性自身も責任をもって役割をこなそうという意識を持てるようになることが重要。 <p>▼町民と企業とのつながりづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 町内企業があるものの、どのような企業か分からない。文化祭のように、企業が集まって知る機会があると良い。知ることにより、例えば活動に必要なものを地元企業から購入するなどができるようになる。 <p>▼活動における人材確保・育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 若い人は国際交流はやってみたいとは思っているが、実際にやってみるとまではいかない。若い人に活動に参加してもらえそうな内容を考える必要がある。 学校のOB会等の別の活動を通じて、参加してくれる若い人を確保できている。 活動に参加しやすい、無理せずに参加 	<p>▼家で過ごす高齢者への支援等</p> <ul style="list-style-type: none"> (人口増加地区)フォローが必要な高齢者が増えた時のことを考え、対応できる体制・つながりづくりが必要。 高齢者のごみ出しに支援が必要。 (人口減少地区)農村地域での見守りが難しい。1軒1軒の間隔が広く、高齢で庭の手入れが行き届かない等で目視での見守りが難しく、また道が暗い。 <p>▼高齢者の移動手段の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 免許返納等で交通手段が確保できず活動に参加できない人がある。高齢者が利用しやすい移動手段を提供してほしい。 <p>▼より良い地域となるための人づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 各行政区のリーダー育成が必要。率先して動ける人材を育成する。 空き家に若者を呼び込むような施策。若い人来てもらいたいと思っていることが伝わるとよい。 <p>▼地域交流の場や気軽に行ける支援の場</p> <ul style="list-style-type: none"> 地区の人と交流が図れる場(地域のカフェ)があるとよい。 不安定な子どもや子育て中の母親が気軽に行ける場が欲しい。やすらぎの園はセキュリティ上、扉が閉まっているため入りにくい雰囲気がある。 子ども食堂は世間体等を気にして利用しにくいという状況もあるらしい。そのため、大々的に見えないよう、公民館等で気軽に飲食ができるようになると良い。また、食事ができると、他の活動でも交流しやすくなる。 <p>▼子育て世帯・子どもの生活支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもの貧困。気になる子がいたら、早期対応できる体制になると良い。 医療体制が整っているようで、実際は 	<p>▼学校側(教員)の業務縮小化について</p> <ul style="list-style-type: none"> デジタル化等は進んだが業務量は劇的には変わっておらず、昔と比べ、学校に求められることが多い。 チャレンジしてみて、失敗しても良いという、それを支えるシステムが必要。 学校側から地域の人に依頼したい時の協力者リストがあると良い。 おやじの会等、地域の人を巻き込んで、一緒に学ぶ機会があると良い。 <p>▼学校を地域の人たちも学べる場に</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域毎に、運動したり、学習したり、交流できる場があると良い。また、そこに行くための手段とワンセットで考える。(実穀ふれあいセンターが良い例) 学校を子どもたちの学びの場としてだけではなく、高齢者も含めた全年齢の学びの場として考え、省庁の垣根を無くす。 <p>▼地域で活躍する人材の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域に貢献できる人材を育成していく必要がある。 <p>▼地域の歴史資源を活かすための取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の遺跡の保管場所として、閉校した学校施設を利用してはどうか。また、予科練に併設して歴史民俗資料館がつくれぬか。 文化財保存活用地域計画を作成し、地域の資源を守り、活用して欲しい。 	<p>▼ゼロカーボン推進に向けた取組支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ゼロカーボンシティを宣言したことを契機に、環境保全活動への予算を確保してほしい。 <p>▼自然環境の保全と意識醸成</p> <ul style="list-style-type: none"> 霞ヶ浦という良い財産がありながら、立派なスロープなどほとんど活用できていない。 自然環境を残しつつ、どうやって多くの人に注目してもらおうかが重要。貴重な資源である湖と暮らす、というテーマを設けていただきたい。 <p>▼多様化する犯罪に対する防犯力強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 複雑巧妙化する犯罪に対応した防犯対策。変化する犯罪に対応した防犯指導・研修会など。 防犯関連団体が連携できるように、町が音頭をとってほしい。 ハンドルロックの補助などの周知。 防犯関連の資器材(ジャンパー、反射材、帽子など)について、支援してほしい。他団体の状況は分からないが、人数分の用意が無い。 不法投棄・金属盗難対策の防犯カメラを設置してほしい。 	<p>▼商業の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> あみメールで商業関連の情報発信をしてほしい。 営利目的で使えるイベント会場があるといい。 <p>▼起業支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 起業家育成プログラムを立ち上げて起業ノウハウの習得を支援する。 廃校になった学校を若くて意欲のある人のチャレンジの場に活用。 <p>▼地元企業の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 農業や商業だけでなく、工業の事業者を知ってもらう機会を作りたい。 建物や整備の発注だけでなく、観光施設の整備なども地元業者に依頼することで町内産業を育成して欲しい。 <p>▼地域資源を活かした場づくり等(観光)</p> <ul style="list-style-type: none"> 古民家レストランなど町の迎賓館となる施設の整備。 町外からの誘客と消費効果を拡大するため、おもてなしの考えで霞ヶ浦湖岸にキャンプ場やりんりんロードにトイレや水場、ベンチなど休憩施設を作る。 霞ヶ浦周辺や国体跡地周辺、予科練平和記念館周辺を一体に賑わいのある場所にして欲しい。 <p>▼新規就農者等への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの支援が新規就農に繋がっているため、使用していない農地や中古農機具の斡旋など、新規就農者を増やすための支援の継続。 高齢化でスイカやグリーンメロンなどの特産品を作付けする人が減っているため、助成金など生産者を増やす取組。 農業のノウハウの継承。 <p>▼時代の変化に対応する農業支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 農業の集約化やITや物流、販売の整備による生産性アップ。

テーマ	基本目標1 協働・人権	基本目標2 子育て・福祉・健康・医療	基本目標3 教育・文化・スポーツ	基本目標4 生活環境・環境保全・防災	基本目標6 産業(農・商・工・観光)
	<p>できる仕組みがある。会議に参加できなくても、事務局がネットを通じて迅速に情報共有してくれる。</p>	<p>乳児を見てもらえる病院が少ない。 ・幼稚園は教材費等お金がかかる。保育園に入れずに、幼稚園に通う人(働いていない母親)への負担が大きい。 ▼施策や活動に関する資金について ・高齢者の移動手段、子ども食堂に関する資金確保はクラウドファンディングが良いのではないか。</p>			<p>・特産品の加工、6次産業化。</p>
<p>3)基本目標を達成するために町民ができること</p>	<p>▼自身のまちに積極的に関わる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区で必要と考えられるものは地区から積極的に要望を出せるようになることよい。 <p>▼地域でのつながりづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区でのつながりを持てるよう、全ての行政区が、年1回でも公民館活動をすべき。それぞれ情報交換し助け合うことが大切。 <p>▼多文化共生に向けた意識醸成等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベント等を通じ外国の方のことを理解し、お互いにリスペクトし合う、そのような町を作りたい。 ・多文化共生を1団体でやるのは難しい。町全体で取り組むべき。 	<p>▼自身のまちに積極的に関わる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政に頼ることを前提にしない。自分で、自分の行政区で動くようにする。 ・自分たちのまちのため、子どもたちのためと動けるようになることよい。若い世代がまちづくりに関われるような仕組み。 ・行政区に入らない人もいるので、そういった人たちをどうするかが課題。 	<p>▼まちの歴史や活動、イベントについて知る・参加する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の歴史を知り、自分たちのまちに誇りをもってもらいたい。 ・まちのさまざまなイベントに参加してほしい。 <p>▼地域の核となる人と共に地域づくりに取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町の様々な取組を区長に知ってもらい、区長が中心になって地域住民と一緒に取り組めると良い。 	<p>▼活動等について知り意識を向上する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・団体活動の情報発信がうまくできていない。広報あみは、見ている人が少ないのか、広報を見ての応募が少なかった。 ・茨城大学と連携・交流した、町民が楽しめるイベントなどの実施。 ・町民一人ひとりが防犯意識を持つこと。「鍵かけ、声かけ、心がけ」の自助・共助・公助の普及。 <p>▼活動の継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続して活動に取り組むこと。 	<p>▼効果的な情報収集・発信による商業等の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元の情報発信等、横の連携を強めて、情報を発信する。 ・あみメールを使った農産物の発信。 ・商工まつりを活用して、地元のニーズに応える個性的な店をつくっていく。 <p>▼農業の維持・発展に向けて取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農地集約化を前進させる。 ・阿見町の農産品(レンコン、そば、サツマイモ、スイカなど)を地元の人に知ってもらうことに特化したイベントなど。 ・特産品の開発や選定。
<p>まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●男女に限らず誰もが地域や社会に参加できる環境づくりを行うとともに、参加する側が責任をもって取り組めるよう意識の啓発。 ●地域との交流を深めるため、まずは様々な団体がつながりを持つことが必要。団体の総会に顔を出すなどして、つながりを持つためのきっかけづくりを開始。 ●日本人だけでなく、地域で生活する全ての人暮らしやすいまちとなるよう、外国人の方の意見を言いやすい場(機会・環境)づくりが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ●自身の地域をより良くするために、自らが動くとともに、地域の人たちと協力し、まちづくりを進めていく。 ●地域とのつながりを持つために、地域の人たちが気軽に訪問できて、交流支援が受けられる場づくりが必要。 ●子育て世代や子どもが安心して暮らせるよう、医療体制や生活支援の取組を進める。 ●若者のライフスタイル(仕事や暮らしに関する考え方等)を踏まえつつ、若者呼び込み、地域に参加してもらえるための仕組みづくりを行うことが必要。 ●今後増加する一人暮らしの高齢者と 	<ul style="list-style-type: none"> ●生涯学習やスポーツ活動については、参加すれば楽しいことを周知し、参加しやすい環境を整えることで、取り組む人を増やしていくことが必要。 ●地域の中で、交流・教育活動等が行えるよう場を確保するとともに、地域で活躍する人材を育てることが重要。 ●学校が必要とする地域協力者のリストが必要。 ●町にある歴史資源を周知・活用することで、阿見に住む人が地域の魅力を知り、自身のまちに誇りを持つことが大切。 	<ul style="list-style-type: none"> ●阿見町ならではの自然環境である霞ヶ浦を保全しつつ、多くの人に注目してもらえるように取り組む。 ●環境を活かしたまちづくりを通して学生と町民との交流の機会を増やしていくことが必要。 ●町内の防犯関連の団体が連携することで、効果的な活動ができ、より体感治安のよいまちをつくることができ。 ●町民団体への防犯指導・研修会などを実施することで、より効果的な防犯体制ができること良い。 ●不法投棄、防犯対策として防犯カメラの設置は有効な手段。 	<ul style="list-style-type: none"> ●観光や仕事で来町する人の目線を意識し、横のつながりを強化した情報発信が必要。 ●古民家や湖岸のキャンプ場、りんりんロードの休憩所など、地元資源を活用した新たな取組。 ●新規就農支援と地元特産品の開発、6次産業化。 ●農業の集約化、IT化などによる生産性の向上。 ●起業のノウハウ、農業のノウハウなど、意欲のある起業家・事業者を育成していく仕組み。

テーマ	基本目標 1 協働・人権	基本目標 2 子育て・福祉・健康・医療	基本目標 3 教育・文化・スポーツ	基本目標 4 生活環境・環境保全・防災	基本目標 6 産業(農・商・工・観光)
		の交流や支援を行うための体制を強化することが必要。			